

多角的に捉えた地域活性化～沖縄の過去・現在・未来



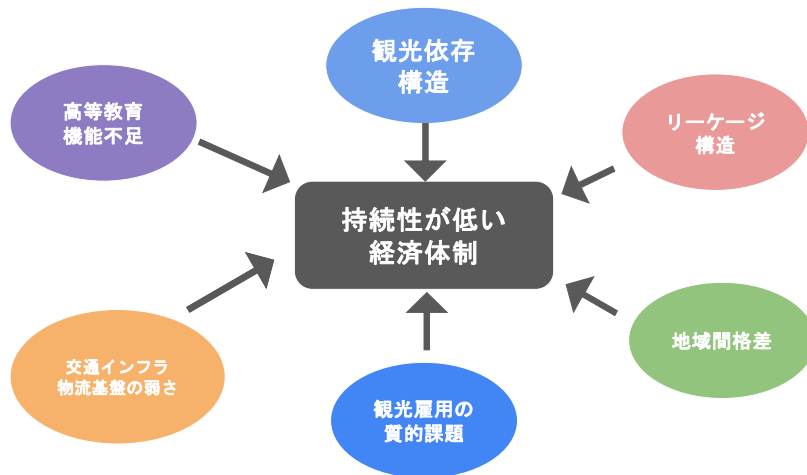
<メンバー>

- ・大学院生：正岡涼
- ・学部生：井上慶太郎、吉川侑希、吉川莉里、笹岡宗史、芦名瑞紀、白木俊輔、西田慧、久保裕睦、小林沙紀
- ・指導教員：パール、大竹英理子、宮本純至

目次

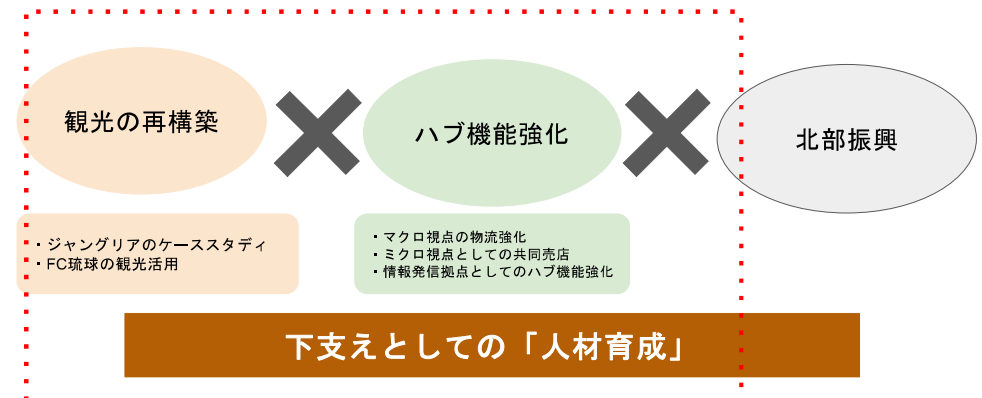
1. 沖縄の経済課題
2. 研究方法
3. 観光産業の現状
4. ジャングリア沖縄のケーススタディ
5. FC琉球のケーススタディ
6. ハブ機能強化による経済振興
7. 本研究の総合提言～持続可能性を創る4層構造～

1. 沖縄経済課題 複合要因による低持続性



どうすれば持続可能な経済に転換できるのか？

鍵は **観光再構築×ハブ機能強化×北部振興×人材育成** の4者接続である。



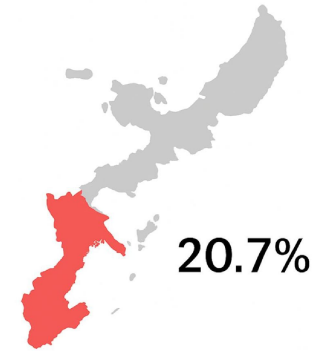
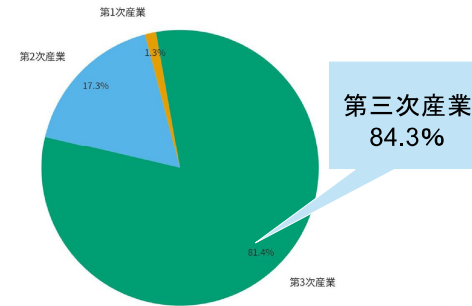
2.研究方法

- 現地視察
 - 共同売店
 - ジャングリア
 - 琉球総合研究所
 - 琉球新報社
 - 地元事業者へのヒアリング
- 公的統計（県統計、産業別データ）
- 物流・観光・人材に関する先行研究・政策資料調査

5

3.観光産業の現状 主産業たる観光業

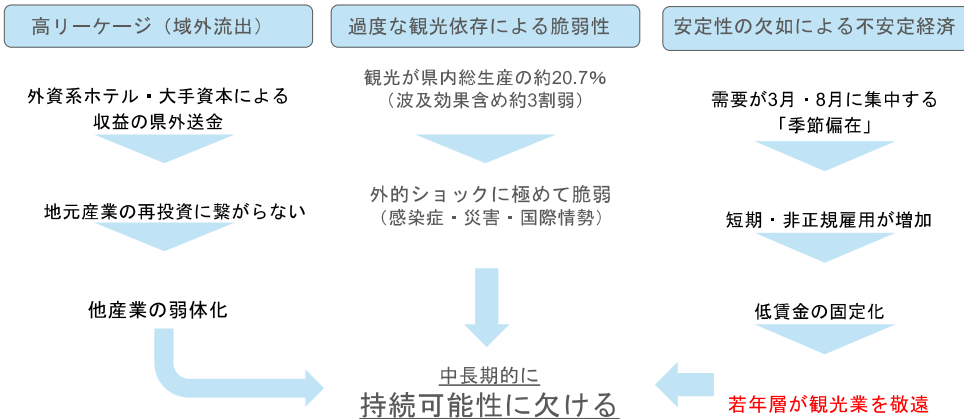
沖縄県 令和元年度 産業別構成比（名目GDPベース）



沖縄県2024年公式統計

6

観光業偏重による沖縄経済の構造的限界



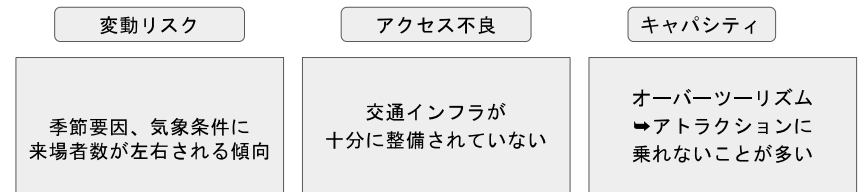
7

4.JUNGLIAOKINAWA 現状と課題

現状

来場者数 : 9万2651人 ※8月時点データ
 県外来訪者 : 7万765人
 ↳約76.4%が県外来場者 ※売上高は未公表

課題



参考資料

朝日新聞：朝日新聞社のニュースサイト
[ジャングリア開業 山積みの課題と対策について（ヨッピー） - エキスパート - Yahoo!ニュース](#)

8

JUNGLIAOKINAWA 対策と提言

対策案



提言

行きやすい×沖縄らしい×夜も楽しい
ジャングリアに

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 季節に応じたイベントを行う 2. 整理券式のアトラクション対応を廃止 3. 交通アクセスの強化と多様化 4. 人材、住居、雇用環境の整備 5. 地域インフラ・宿泊施設の拡充 6. JUNGLIAOKINAWAでのフェス開催 | <ul style="list-style-type: none"> ● 交通アクセス改善で“行きにくい”を解消 ● 夜間イベントで滞在時間UP→消費UP ● 自然体験を増やし“ここだけ”の価値を強化
宿泊を絡めて観光を“通過型”から“滞在型”へ ● インバウンド向けに使いやすくする ● 気候対策で満足度を上げる ● 地域と一体になったブランド化 |
|---|---|

9

沖縄音楽モンパチフェスを通じた地域活性化 独自性と課題

独自の強みと地域貢献

地域文化の熱量と融合

指笛ができる人の率が非常に高く、「うちなー」を強く体感できる。地元の青年団によるエイサーの披露もあり、地元の良さを肌身で感じられる。

多世代参加と自由な雰囲気

小さな子供からおじおばまで幅広い年齢層が参加。砂浜で踊るもよし、海に入りながら聴くもよしという自由な楽しみ方。

主催者コンセプト

ちいさな恋の歌で有名なMONGOL800が主催。主催バンドの仲の良いバンドを中心に集めた、アットホームな音楽フェスである。

運営上の課題と文化的摩擦

文化的衝突

地元の自由という認識と、他県から集まる大人数でのフェスの安全ルールの間大きなギャップが存在。

ルールの軽視

撮影禁止が不徹底（友人の体験）。地元のイベントだから許されるという認識が見られる。

安全リスクの課題

危険エリアへの子供の連れ込みが散見され、運営上の安全管理体制が限界に直面。

10

5.FC琉球の構造的課題と現状分析

経済的・集客力（同カテゴリーの松本山雅FCとの比較）

デジタル戦略の長所と短所

項目	FC琉球	松本山雅FC	差 (倍率)
ホームスタジアム	タピック/ 沖縄県総	サンプロ アルウィン	-
スタジアム キャパシティ	約10,000人	約20,000人	約2.0倍
平均入場者数	3,007人	8,439人	約2.8倍
総動員数	57,136人	161,000人	約2.8倍
売り上げ総収入 (2024年度)	5億9,620万 円	14億3,161万 円	約2.4倍

- ・リーチ力は高い
YouTubeショート動画の平均再生数は松本山雅FCの約15倍を記録。
- ・エンゲージメントが低い
このリーチが地域密着・愛着に転換されず、経済的成功に結びついていない。
- ・本質的な課題
沖縄の無形資産（ちむぐる等）を「感情的結びつき」に昇華させる戦略が決定的に不足。

11

二つの独自のアイデア

CSV戦略への転換 (Creating Shared Value)

「ちむぐる」をコスト(CSR)から利益へ (Corporate Social Responsibility)

- ✓ **定義** 地域課題の解決（健康増進、体験格差是正）をクラブの中核事業として制度化。
- ✓ 収益化活動の社会的インパクトを定量化し、スポンサーへの価値還元として提示。新たな収益源を確立する。
- ✓ **目標** 活動が自律的に継続する持続可能な経営構造を確立し、経営状況に左右されない。

日本版・地域資本構造の構築

無形の「ちむぐる」を実質的な「資本」へ

- ✓ **構造** リーグの株式会社の制約下で、地域限定の市民債やパートナーシップを通じ、地域住民を実質的なオーナーとする。
- ✓ **効果** オーナーの独断による「単一資本依存リスク」や「チーム移転リスク」を構造的に排除する。
- ✓ **目標** 小規模市場の制約を超越し、地域とクラブが一体となる理想的な共存関係を恒久的に実現する。

12

結論：沖縄を進化させるJクラブへ

FC琉球をで行うこれらの戦略こそが、
将来的に沖縄経済を活性化させる解決策である。



観光と文化の統合

琉球文化（エイサー等）を
戦略に統合し、
スポーツツーリズムの
「目的」を昇華させる



国際的成功の再現

小規模都市ながら公的所有で
成功した海外モデルを、
沖縄の無形資産で再現する



経済発展へ

域内経済循環、社会的包摂
信頼関係構築を実現する
持続可能な経済発展の核とする

13

6.ハブ機能強化による経済振興

<課題>

- ・ ゆいレールによる輸送力限界
- ・ 那覇中心部の慢性的渋滞
- ・ 県営鉄道の歴史的意義

<要因>

- ・ 自家用車依存率が高い

14

提言

交通需要を分散させる為には、

MaaSの導入、バスレーンの拡充、パーク＆ライドの促進、モビリティ・マネジメントなどの総合的な対策

鉄道の復活やLRT・BRTの導入といった大規模インフラ整備

15

沖縄の国際物流ハブとしての可能性



- 1. 地理的優位性**
 - ・ 東アジア主要都市（上海・香港・北京・台北）への近接
 - ・ 「都市間ネットワーク」を活用した現代型物流
- 2. 歴史的背景**
 - ・ かつてアジア交易の中心
 - ・ 現代も地政学的に国際物流ハブとして注目
- 3. 沖縄県の取り組み**
 - ・ IT津梁パーク・情報発信センター設立
 - ・ 企業誘致・人材育成・通信基盤整備
 - ・ 進出企業：約500社 雇用：約3万人
- 4. 発展の3段階**

第1段階：ANA国際貨物ハブ開始、特区整備、輸出拡大
第2段階：航空・海運路線拡充、特区拡大、物流拠点化
第3段階：世界メーカー拠点化、3PL・ECストックセンター・緊急パーツ機能強化

参考資料
沖縄県庁(2021)「沖縄国際物流ハブ」
総務省統計局「人口推計（令和3年1月報）」
外務省HP（令和2年10月7日時点）「中華人民共和國基礎データ」
外務省「目で見るASEAN（令和2年8月）、現在のASEAN（2019年）」

16

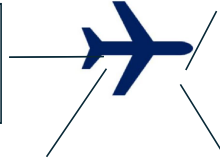
沖縄物流ハブの強みと成果

1. 物流ハブとしての強み

- ・那覇空港：24時間運用
- ・貨物専用機+ベリール便を活用した航空ネットワーク
- EC需要対応、包装～発送のワンストップ支援

2. 在庫拠点としての優位性

- ・緊急パーツ保管でリードタイム短縮
- ・在庫集約によるコスト削減
- ・簡易包装で関税・時間の短縮対応



3. 越境ECと成長

- ・世界EC市場：2020→2027で急成長
- ・新規路線・貨物便復便、観光回復策でEC物流強化

4. 沖縄からの食品輸出の成長と市場拡大

- ・2009年～2024年で大幅に成長
- ・台湾依存から脱却
- 韓国、米国、オーストラリアなどへ進出
- ・輸出数量の増加だけでなく単価も上昇
- ・高付加価値商品の輸出が進む

5. 成長背景

- ・日本ブランド海外人気（安全・高品質）
- ・インバウンド需要拡大
- ・円安による輸出促進
- ・コロナ後の本格回復
- 中国人の日本旅行自粛による沖縄物流に対する打撃が懸念点

17

マクロ視点のハブ機能 情報発信拠点

沖縄21世紀ビジョン

「平和を創造・発信する国際都市」を目指す

→ 国際平和の拠点形成・アジア交流の拡大・持続可能な地域社会の創出

現状課題

- ①戦争体験や平和の記憶継承の弱体化
- ②観光依存度の高さと経済の脆弱性
- ③平和・文化活動を担う人材育成の遅れや若年層の県外流出
- ④北部のインフラ・宿泊需要

18

マクロ視点のハブ機能 情報発信拠点

提言：「知の港」としての沖縄に「**アジアの安全保障を高める**」拠点づくり

「平和・文化・MICE・教育」を統合した国際拠点を開発し、国際会議やフォーラムの開催

- 国連機関の誘致、国際会議場
- ・国際NGOや研究機関のサテライト拠点
- ・国内外の大学との連携キャンパス

「平和ブランド」の国際発信と継承の仕組みを構築

- 日本唯一の地上戦を経験し、現在も米軍基地が集中する地域として、平和の重要性を語る
- ・国内向け平和教育に加えて、国際社会に対して平和の価値を発信
- ・国際会議を定期開催し、アジア太平洋地域の紛争・人権・環境・基地問題などを議論
- ・県内外の研究機関やNGO、若者団体を巻き込み、多層的な対話のプラットフォームを形成

19

ミクロ視点のハブ機能の可能性 共同売店

共同売店とは：主に小売における購買事業を中心とした、いわゆる生活協同組合的組織

特徴：

住民のほぼ全世帯が株を購入して株主＝組員となる場合が多い。

機能：

生活必需品の購入などで必然的に住民が集まる。

- 子どもや若者、働き世代にとっては地域とのつながりを感じられる拠点。
- 高齢者にとっては安心や充実感を感じられる場所である。

課題：

地域主体運営だけでは対応が難しい。外部支援と連携した新たな仕組みづくりが必要



20

ミクロ視点のハブ機能の可能性 共同売店

提言：
地域住民の主体的な運営に加え、外部の支援をうまく組み合わせることが重要

外部のノウハウ・資金が入ると、
➡若い世代の参加や新しい地域ビジネスが生まれやすくなり、
地域経済の持続可能性も高まる。

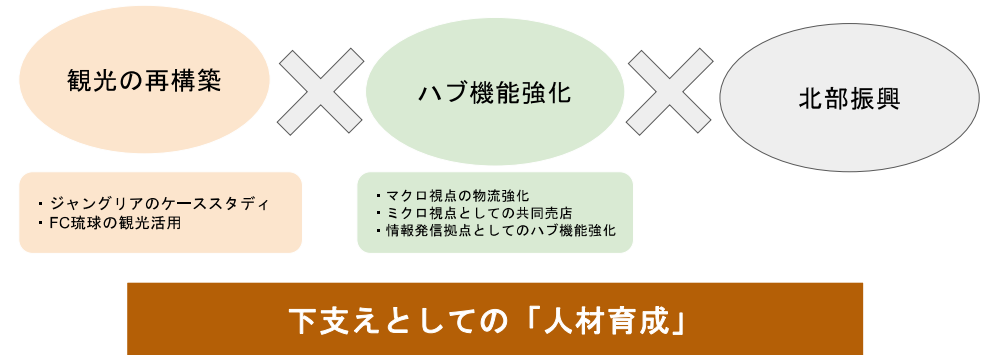
文化・交流・福祉・経済の中心となる力を持つ共同売店
➡外部支援により多世代が生きがいを持ちながら暮らし続けられる
「多世代共生型地域モデル」の創出

▶成功ケースとして他拠点へ展開の可能性も

21

沖縄経済の持続可能性を創る4層構造

まとめ



22

参考文献（ウェブサイトを含む）

1. 寺島実郎「脳力のレッスン『国交なき交易』としての江戸期の日中関係一七世紀オランダからの視界（その28）」『世界』2014年6月号、岩波書店
2. 寺島実郎「脳力のレッスン 江戸期の琉球国と東アジア、そして沖縄の今一七世紀オランダからの視界（その28）」『世界』2015年4月号、岩波書店
3. 大江健三郎『沖縄ノート』、岩波書店、1970年
4. 外間守善『沖縄の歴史と文化』、中公新書、1986年
5. 桜澤誠『沖縄の現代史』、中公新書、2015年
6. 『日本人として知っておきたい琉球・沖縄』、PHP新書、2022年
7. 高良倉吉『沖縄問題—リアリズムの視点から』、中公新書、2017年
8. 高良倉吉『琉球王国』、岩波書店、1993年
9. 高橋哲哉『沖縄の米軍基地『県外移設』を考える』、集英社新書、2015年
10. 大久保潤・篠原章『沖縄の不都合な真実』、新潮新書、2015年
11. ヨーゼフ・クライナー著、沖縄大学地域研究所編『世界の沖縄学：沖縄研究50年の歩み』、芙蓉書房出版、2012年

23

12. 前田勇樹・古波蔵契『かたりあう沖縄近現代史：沖縄のこれからを引き継ぐための七つのムヌガタイ』、ボーダーインク、2025年
13. 今林直樹『沖縄の歴史・政治・社会』、大学教育出版、2016年
14. 桜澤誠『沖縄観光産業の近現代史』、人文書院、2021年
15. 『ヤンキーと地元—解体屋、風俗経営者、ヤミ業者になった沖縄の若者たち』、筑摩書房、2024年
16. 『裸足で逃げる沖縄の夜の街の少女たち』、太田書房、2017年
17. Jeju 「済州フォーラム2025、60ヶ国4千人以上が参加 53セッション運営」
(参照日：2025年6月5日) https://www.investkorea.org/ji-jp/bbs/i-2151/detail.do?ntt_sn=491350
18. 沖縄県公式HP 「沖縄県の概要」
(参照日：2025年6月5日) https://www.pref.okinawa.jp/res/projects/default_project/_page_001/012/957/dai1svou.pdf
19. 日経BP「勝ち筋の作り方」
(参照日：2025年6月5日) <https://xtrend.nikkei.com/atcl/contents/18/00920/00005/>
20. DIAMOND online「森岡毅の新テーマパーク」
(参照日：2025年6月5日) <https://diamond.jp/articles/-/358410>
21. 内閣府沖縄総合事務局運輸部観光課「令和6年度 北部地域における観光客糖による共同売店利用実態等調査・分析を通じた伴走支援事業 一報告書一」、令和7年3月、[RG-kyoudobaiten-chousa.pdf](https://www.pref.okinawa.jp/res/projects/default_project/_page_001/012/957/dai1svou.pdf)
22. 沖縄県「第2期沖縄県スポーツ振興計画 世界にはばたき躍動する「スポーツアイランド沖縄」形成」令和4年3月、[Microsoft Word - 沖縄県第2期スポーツ推進計画+](#)

24

参考文献（ウェブサイトを含む）

1. 寺島実郎「脳力のレッスン『国交なき交易』としての江戸期の日中関係一七世紀オランダからの視界（その28）」『世界』2014年6月号、岩波書店
2. 寺島実郎「脳力のレッスン 江戸期の琉球国と東アジア、そして沖縄の今一七世紀オランダからの視界（その28）」『世界』2015年4月号、岩波書店
3. 大江健三郎『沖縄ノート』、岩波書店、1970年
4. 外間守善『沖縄の歴史と文化』、中公新書、1986年
5. 桜澤誠『沖縄の現代史』、中公新書、2015年
6. 『日本人として知っておきたい琉球・沖縄』、PHP新書、2022年
7. 高良倉吉『沖縄問題—リアリズムの視点から』、中公新書、2017年
8. 高良倉吉『琉球王国』、岩波書店、1993年
9. 高橋哲哉『沖縄の米軍基地『県外移設』を考える』、集英社新書、2015年
10. 大久保潤・篠原章『沖縄の不都合な真実』、新潮新書、2015年
11. ヨーゼフ・クライナー著、沖縄大学地域研究所編『世界の沖縄学：沖縄研究50年の歩み』、芙蓉書房出版、2012年

25

ご清聴、ありがとうございました。

26